

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R5入学 現3年生	国語		数学		理科
	2年時	3年時	2年時	3年時	3年時
	県	全国	県	全国	全国
	57.3	47.0	45.5	38.0	45.0
	(0.92)	(0.89)	(0.86)	(0.85)	
R7正答率の全国比		0.87		0.79	

◎2年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎「R7正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

◎「中学校理科」は、IRT（項目反応理論）に基づいて算出したIRTスコアを表示。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・国語科では、「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる」（読むこと1ア）が全国の平均正答率より0.3ポイント高い。「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる」（読むこと1エ）が、15.3ポイント低い。数学科では、「事象が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において反例をあげることができる」（数と式）が、4.6ポイント高い。「総合的、発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる」（図形）が、21.4ポイント低い。根拠や理由をもとに筋道を立てて説明する力を伸ばす必要がある。

・意識調査では、「自分にはよいところがある」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」、「将来の夢や目標を持っていますか」、「友達関係に満足していますか」に肯定的に回答した生徒の割合が、全国の平均値より高い。一方、平日、休日とも家庭学習に費やす時間が短い生徒の割合が高い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「授業づくりのステップ1・2・3」等の授業改善リーフレットを活用した取り組みを推進する。
- ・リーディングDX事業の取り組みとして、公開授業・授業研究会を年3回開催し、ICTの効果的な活用法を高めていく。また、授業構想シートを活用した1人1回の公開授業を行う。これを基に、個別最適な学びと、協働的な学びの充実を図る。
- ・授業において「見通し」や「振り返り」の場面を設定し、主体的な学びにつなげる。
- ・実力テストに合わせて学習強化期間を設けたり、定期テストに向けた計画的な学習を進めたりするなど、家庭学習の内容と質の改善を目指す。また、各教科において、タブレットドリル活用して基礎・基本の学習を繰り返し行い、定着を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の会や帰りの会等でフォーサイト手帳を活用して、見通しを持ち、自ら進んで学習や生活に取り組むことができるように支援する。さらにタブレット(クラウド)の活用により、家庭でも自分の学習を振り返り、予習・復習を進めていくように支援していく。
- ・「家庭学習の手引き」の配布、学校HPへの掲載を通して保護者と共に学ぶ意欲や姿勢を高めていく。
- ・朝読書や朝無言掃除を通して落ち着いた教室の雰囲気や授業につなげている。
- ・各種行事において、生徒が主体的に取り組む場面をこれまで以上に設定していく。